

土曜 ライフ・楽しむ

今年の漢字 あえて「夢」を選ぶ

わたし色

生活情報誌「悠悠と。」
編集長・真鍋康利さん



巢ごもりの友に落語はいかがですか。特に年の瀬には古くから親しまれている人情ばなし「芝浜」がお勧め。夫婦の在り方を改めて見直し、暗かった一年を締めくくるには最適です。私は柳家小三治さんの「芝浜」が好きですね。



腕はいいが、酒好きで失敗ばかりの魚屋勝五郎。女房に起こされ、嫌々芝の魚河岸に向かう。そこで拾った財布を持ち帰り、女房と中を見ると何と52両もの大金。「もう働かなくても楽しく遊んで暮らせる」と浮かれる勝五郎。仲間を集めてさんざん飲んで、酔っぱらって寝てしまう。

翌朝女房に起こされた勝五郎は「昨日の酒代のツケをどうするんだ」と女房に責められ、「例の財布の金で払えばいいだろ」と返すが、女房は「財布？ お前さん、夢でも見たんじゃないのかい」とあきれられる。あわてて家探しするも見つからず、ついに財布の件を夢と諦める。

自分の情けなさを恥じ、考え直した勝五郎は「これじゃいけねえ」と一念発起、断酒し死にもの狂いで働き始める。結果、元来腕利きなので3年後には表通りにいっばしの店を構えることができ、生活も安定し身代も増えた。

大みそかの晩、勝五郎は女房の献身をねぎらい頭を下げる。すると女房は、涙ながら

に3年前のことを告白する。

あの日、拾った大金を見せられた女房は困惑した。10両盗めば首が飛ぶといわれた当時、横領がばれば死刑。長屋の大家と相談し、大家は拾得物として役所に届け、女房は「財布なぞ拾ってない」と酔っぱらっている勝五郎を言いぐるめることにした。時が経ち、落とし主が現れなかったため、拾い主に財布の金が下げ渡された。

真実を聞かされた勝五郎は女房を責めることはなく、道を踏み外しそうになった自分を真人間へと立ち直らせてくれた女房の機転に感謝する。女房は懸命に頑張ってきた夫

をねぎらい、久しぶりに酒でもと勧める。はじめは拒んだ勝五郎だったが、やがておずおずと杯を手にする。「うん、そうだな、じゃあ、飲むとするか」といったんは口元に運ぶが、ふいに杯を置く。「よすぜ。また夢になるといけねえ」



今年の漢字は「密」に決まりました。他の候補も「禍」「病」「滅」などマイナスイメージの漢字が並びました。コロナで大変な年だったので仕方ないかもしれませんが。

しかし私はあえて「夢」を選びたいと思います。来年こそ明るい年になるよう夢を見る、今年のこの禍(わざ)いが夢であってほしい、そんな気持ちがありますように。

皆さんの新年が良い年でありますように。